

自己評価報告書(最終報告)

報告者

自然系コース(数学)／平野
康之

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

- ① 授業は、数学の教員となるために必要な専門的知識を身につけるとともに学生が教員になってからも新しいことを自分で学んでいける力を持てるような内容にする。
- ② 授業方法は講義とともに適切な演習を行い、学生が講義内容を確実に習得できるようにする。
- ③ 成績評価は、シラバスに基づき、成績評価基準を学生に説明し、公平性、透明性をもたせ、厳格に実施する。

2. 点検・評価

- ① 授業内容は、数学の教員となるために必要な専門的知識について講義するとともに、将来教師になった後の時代の様々な変化に対応し学生が自ら新しいことを学んでいける力を持てるように工夫した。
- ② 授業方法は、講義とともに講義内容に則した適切かつ具体的な演習を行うことにより、講義内容を理解するとともに内容が現実的であることを実感させることができた。
- ③ 成績評価は、シラバスに基づき、成績評価基準を学生に前以って説明することにより公平性、透明性をもたせ、予告通りかつ厳格に評価を実行した。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ① 数学講座の学生に、折にふれて、教員採用に対する意識・心構えを育成し、学生が充実した勉学・学生生活を送れるように積極的に支援する。また、院生の教員採用試験の勉強の手助けを行う。
- ② 折に触れ、自分の研究の一端や、興味あることなどを話すことにより、学生とコミュニケーションをとるとともに、知的集団としての品格のある大学の構築をめざす。
- ③ 卒業論文・修士論文の指導及び進路・学生生活に関して、自分のゼミの学生であるなしを問わず、常に学生の相談に対応し、適切なアドバイスを与える。
- ④ ソフトバール部顧問として学生の課外活動を支援する。

2. 点検・評価

- ① 数学講座の学生に、折にふれて、教員採用に対する意識・心構えを育成し、学生が充実した勉学・学生生活を送れるように積極的に支援した。また、院生の教員採用試験の勉強の手助けを行なった。結果、ゼミに所属する院生が一名、広島県の小学校教員採用試験に合格した。
- ② 学生とコミュニケーションを密にとるとともに、知的集団としての品格のある大学の構築に向けて努力した。
- ③ 卒業論文・修士論文の指導及び進路・学生生活に関して、常に学生の相談に対応し、適切なアドバイスを与えた。
- ④ ソフトバール部顧問として学生の課外活動を支援した。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

- ① 現在研究中の「環の原始べき等元の交換性」を共同研究者と共に発展させ、成果を論文としてまとめ、学会誌に投稿し掲載する。
- ② 有限環から複素数体への関数のなす環の構造を調べ、符号理論への応用をめざす。
- ③ 学内外の研究助成の公募に積極的に申請し、研究資金の調達に重点をおく。特に科学研究費を獲得できるように努力する。

2. 点検・評価

- ① 現在研究中の「環の原始べき等元の交換性」を共同研究者と共に論文としてまとめ、現在、学会誌に投稿中である。
- ② 有限環から複素数体への関数のなす環の構造を調べ、符号理論への応用したものが10月13日に東京理科大学理学部で開催された第46回環論および表現論シンポジウム(“On the ring of complex-valued functions on a finite ring”という題目で講演した。その報告書は Proceedings of the 46th Symposium on Ring Theory and Representation Theory に掲載された。
- ③ 掲載予定であった論文 “Finite rings and Wilson's theorem” が Turkish J. Math. 37 (2013), 571-576 に掲載された。
- ④ 科学研究費を研究課題名「有限環の構造と符号理論」で応募したが不採択であった。
- ⑤ 首都大学東京で開催された第10回「代数学と計算」研究集会 (AC2013)で講演「正整数上へのある作用の繰り返しの振る舞い」を行い、原稿を電子出版するために、実行委員会に投稿した。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- ① 附属図書館運営委員会委員として学内の会議に出席し、職務を遂行する。
- ② 国際交流委員会委員として学内の会議に出席し、職務を遂行する。
- ③ 算数・数学科コース1年～4年の副担任として教員採用試験に関して学生へ援助、協力を行うことにより本学の教員採用率の向上に貢献する。

2. 点検・評価

- ① 附属図書館運営委員会委員として学内の会議に出席し、職務を遂行した。
- ② 国際交流委員会委員として学内の会議に出席し、職務を遂行した。
- ③ 算数・数学科コース1年～4年の副担任として教員採用試験に関して学生へ援助、協力を行って本学の教員採用率の向上にむけて努力した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ① 附属小・中学校の算数・数学教員たちと日頃から緊密な関係を保ち、メールによる質問、相談を受け付け、解答、アドバイスを行う。(附属学校)
- ② 学校数学研究会等に積極的に参加し、現職数学教員たちと現場の問題解決に向けて討議を行なっている。(社会連携)
- ③ 教員支援講師・アドバイザーとして登録し、機会ある毎に、学校現場で数学の話をし、教師の資質の向上を図る。(社会連携)
- ④ 徳島県教育会の主催する「徳島わくわく算数教室」に共催として参加する。(社会連携)
- ⑤ JICA研修(大洋州)で講義を行い、協力する。(国際交流)

2. 点検・評価

- ① 附属小・中学校の算数・数学教員たちと日頃から緊密な関係を保ち、12月12日には附属学校教員と懇親会を行い、メールによる質問、相談を受ける体制を整えた。また11月26日には附属中学校総合選択の授業を行なった。(附属学校)
- ② 今年度は学校数学研究会と他の学会が重なったため学校数学研究会には欠席したが、現職数学教員たちと現場の問題解決に向けて努力した。(社会連携)
- ③ 教員支援講師・アドバイザーとして登録した。(社会連携)
- ④ 徳島県教育会の主催する「徳島わくわく算数教室」に共催として参加した。(社会連携)
- ⑤ JICA研修(大洋州)で6月4日に大洋州12人に対して講義を行った。(国際交流)
- ⑥ 次世代科学者育成プログラムというプロジェクトにおいて、8月11日(日)と8月18日(日)に「図形数を調べよう」という講義を行なった。(社会連携)

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

6月4日にJICA研修(大洋州)にきた12人に対し、代数分野の教材について講義を行なった。また次世代科学者育成プログラムというプロジェクトにおいて、8月11日(日)と8月18日(日)に「図形数を調べよう」という講義を行なった。